

藤倉大：ピアノ協奏曲第3番《インパルス》（室内楽版）

この作品は、僕にとって3つ目のピアノ協奏曲。とはいえ「ピアノが主役で、オーケストラが付き添う」といった感じではなく、ピアノがどんな繊細な音を弾いても、それに即座に反応するオーケストラ一時にはまるで魔法のペダルのように、ただ残響として響くだけでなく、生き物のようにうごめく……そんな音響世界です。

曲全体を通して、気持ちよさーある種のオルガズミックな感覚が続く部分もあり、単旋律の一音に始まり、最低音とドラムが絡み合ったかと思えば、最高音にオーケストラがパッと反応する瞬間など、インパルス（衝動・信号）の連鎖が描かれています。ピアノがオーケストラに信号を送り、それに応える一でも忠実に従うわけではない。そんなやりとりが音楽の推進力になっています。

今回、小菅優さんから、この協奏曲を「弾き振り」でも演奏できるように、室内楽版への編曲を依頼されました。僕としては軽く「まあ可能じゃない〜？」なんて返事をしたのですが、それが本当に委嘱として動き出し、気づけば神戸市室内管弦樂團に加えて、個人委嘱として長谷川綾子さんとの共同委嘱にまで発展していたのです。

大きなオーケストラ作品を小編成にするのは、かなり難しいクロスワードパズルのような作業です。特に僕の音楽は高音域に音が集中しがちで、室内編成だとその音域を担える楽器が限られてしまうため、かなりの工夫が必要でした。

余談ですが、僕はペットを飼ったことがないのですが、何人かの友人から「ダイの音楽を流すと、うちの犬がすごく喜ぶんだよね」と言われることが多く……高音域に音が多いからか、人間より耳の良い犬には倍音までしっかり聞こえて、もしかすると心地よいのかもしれない。やっと自分の音楽の“ターゲット層”を掴めた気がします。

藤倉大